



妙高市立妙高高原北小学校

2月号

学校だより

令和3年2月5日

外敵の鬼、心の中の鬼

校長 岡田 和則

2月2日（火）は、124年ぶりとなる節分の日でした。（通常は2月3日、地球の公転周期の関係で今年は2月3日が立春、その前日ということで2日が節分）節分というと、鬼を追い出すために豆をまく風習があり、ご家庭でも豆まきをされたのではないのでしょうか。また近年では「恵方巻」を食べる風習も全国的に広まり、今年は特に家庭で過ごすということで大きな売れ行きとなっていたようです。

そこで、2日の全校朝会の折に、最近の「鬼滅の刃」人気もあったところから、子供たちにこんな話をしてみました。

「鬼はいると思いますか。いるとしたらどこにいますか。」

いる、いない、ほぼ半々でした。

「いるとした人は、どこにいると思いますか？」 「地獄です。」「心の中にいると思います。」

高学年の方が「いる」が多く、「心の中」とした子がほとんどでした。しかし、低学年は「いない」とした子が8割以上、いるとした子でも「心の中」と答えた子は一人もいませんでした。

これまで多くの学校では節分の日には児童会行事等として「落花生」「あめやチョコなど」の豆まき、そして「追い出したい鬼の作文、発表」などの活動を行っていました。本来の節分の「鬼」は外敵（疫病、厄、降りかかってくる災い）が家の中に入ってこないようにとの意味合い（無病息災）が、いつの間にか「鬼は心に宿る、その鬼を追い出す」という発想を子供たちに植え付けていったのではないかと考えられます。（よいか悪いかは別として、学校教育の影響が大）

こんなことも聞いてみました。

「天国や地獄はあると思いますか。どんな場所だと思いますか。」

「善いことをしていると天国（極楽）に行きますか、悪いことをしていると地獄に落ちますか。」

学年の差なく、9割の子が「天国、地獄はある」「行動の善悪が運命を決める」という考え方をしていました。学校では「天国や地獄」の学習を行っていませんから、鬼の存在の半々とくらべると、個々の家庭での生活や会話、読書などの影響が強く表れているのでしょうか。善悪のけじめがついていることがまず前提ですが、仏教の「因果応報」の考えが根付いていることが分かります。（家庭教育の影響が大）

「いいことをすると天国に行ける、悪いことをすると地獄に落ちる、結果には必ず原因があるとする考え方を「因果応報」と言います。漢字練習をたくさんする→合格、怠けてしまった→不合格 などです。良い結果を出したかったら、努力することが大切だね。そしてそれを決めるのは、自分の心、強い心です。信越学童などスキー大会も近くなりました。どんな結果を出したいかイメージしながら、がんばっていきましょうね。」

立ち向かうべき外敵の鬼は「コロナ」そして追い出す心の中の鬼は「誹謗、中傷、差別」です。相手を見失うことなく、強い心で一日一日を過ごしていけるよう、子供たちに語り続けます。

鬼が出た!



実は、学校には今年も鬼が現れました。先に述べたように例年なら「豆まき」をして鬼を退治し、「まいた豆は拾って年の数だけ食べる」行事を行っていたのですが、今年はコロナ禍により豆をまいて拾うことは断念し、職員が鬼に扮して各教室を回りました。鬼は学年ごとに目標を決め、強い心で守るようにと教え、諭していました。



積雪時の避難訓練を行いました。



冬期に学校で火災が発生したとの想定で、避難訓練を行いました。避難経路が限られるところから、防火シャッターをくぐり抜けて外に避難するとともに、できるだけ校舎から離れるようにと地下道へと避難しました。状況によって避難する場所が変わってきます。様々に経験することで、いざというときに落ち着いて対応できるようにしていきます。

昔の人も遊び好き?

3年生が社会科の学習で斐太歴史民俗資料館へ行ってきました。ここ百年の間に大きく変わってきた人々の暮らしの様子について、「使われていたもの」から考えるという学習です。一つ一つ道後を見ながら、「これは何に使うもの?」「どんな使い方?」などそれぞれが疑問をもちながら観察していました。道具は木や植物、鉄など自然のものを生かし、その時代の人たちが生活を工夫して創り上げていたことを学ぶことができました。中でも冬の暮らしでは、「おしゃれなマント」「今でいうスノースクート(サドルを付けて座ってコントロールするスキー)」には、特にびっくりしていたようです。昔の人もおしゃれで遊び好き!



児童数減少に関わる現状について

全国的に進む少子化は、妙高高原地区でも例外ではありません。今年度に入り北小学校では転出入が相次ぎ、また隣の南小学校でも児童数が減少、両校で令和4年度より複式学級を編制する見込みとなりました。このことを受け、PTAでは市教委よりおいでいただき、地域代表（後援会役員、コミュニティスクール委員）、保護者向けに今後の見通しについての懇談会を実施いたしました。また南小学校、妙高高原こども園でも、今後の在り方を問う保護者向けのアンケート調査を行っています。

このことは、北小学校だけの問題ではなく、これまで学校を支援していただいた地域のすべての皆様、そしてこれから入学するこども園の保護者も含めた地域の大きな課題となります。以下、市教委より提供され、説明いただいた資料の一部です。現状を捉えるということで市教委から許可をいただき、提供させていただきますので、広く地域に皆様で話題にしていただければ幸いです。よろしくお願いたします。

資料1 児童数の今後の推移

○妙高高原北小学校 令和3年1月7日現在

生年	出生人数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
		学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数
H20	10	6 10	6 20	6 11	6 12	6 11	6 9	6 7
H21	20	5 20	6 20	5 11	5 11	5 9	5 7	5 11
H22	11	4 11	5 11	4 11	4 9	4 7	4 11	4 13
H23	12	3 12	4 12	5 12	6 12	5 11	3 13	3 12
H24	11	2 11	3 11	4 11	5 11	4 7	2 12	2 9
H25	9	1 9	2 9	3 9	4 9	5 9	6 9	1 13
H26	7	全校 73	1 7	2 7	3 7	4 7	5 7	全校 65
H27	11		全校 70	1 11	2 11	3 11	4 11	
H28	13			全校 61	1 13	2 13	3 13	
H29	12				全校 63	1 12	2 12	
H30	9					全校 63	1 9	
R1	13						全校 61	

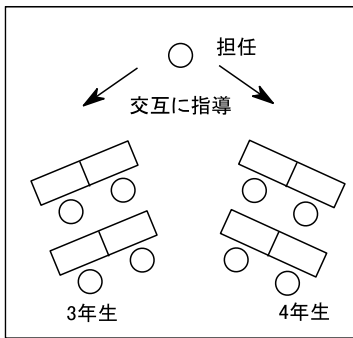
○妙高高原南小学校

生年	出生人数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
		学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数	学年 人数
H20	13	6 13	6 12	6 8	6 13	6 10	6 10	6 6
H21	12	5 12	6 12	5 8	5 10	5 10	5 6	5 10
H22	8	4 8	5 8	4 10	4 10	4 6	4 10	4 3
H23	13	3 13	4 13	5 13	6 13	3 10	3 3	3 5
H24	10	2 10	3 10	4 10	5 10	4 6	2 5	2 5
H25	10	1 10	2 10	3 10	4 10	5 10	6 10	1 7
H26	6	全校 66	1 6	2 6	3 6	4 6	5 6	全校 36
H27	10		全校 59	1 10	2 10	3 10	4 10	
H28	3			全校 57	1 3	2 3	3 3	
H29	5				全校 52	1 5	2 5	
H30	5					全校 44	1 5	
R1	7						全校 39	

○妙高高原北小学校+妙高高原南小学校								
出生年	出生人数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
		学年 人数						
H20	23	6 23						
H21	32	5 32	学年 人数					
H22	19	4 19	5 19	6 19	学年 人数			
H23	25	3 25	4 25	5 25	6 25	学年 人数		
H24	21	2 21	3 21	4 21	5 21	6 21	学年 人数	
H25	19	1 19	2 18	3 18	4 18	5 18	6 18	学年 人数
H26	13	全校 139	1 13	2 13	3 13	4 13	5 13	6 13
H27	21		全校 128	1 21	2 21	3 21	4 21	5 21
H28	16			全校 117	1 16	2 16	3 16	4 16
H29	17				全校 114	1 17	2 17	3 17
H30	14					全校 106	1 14	2 14
R1	20						全校 99	1 20
								全校 101

資料2 複式学級について (2つの学年(異学年)で、1つの学級を編制する)

●各学年の内容を指導する場合(ワタリ方式)



1時間の中で、それぞれの学年の授業を交互に行う方法。
授業を行っていないときは、復習や練習問題に取り組む。

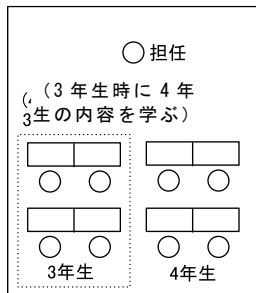
—授業のイメージ—

3年生 授業-----練習-----授業-----練習
4年生 -----復習-----授業-----練習-----授業

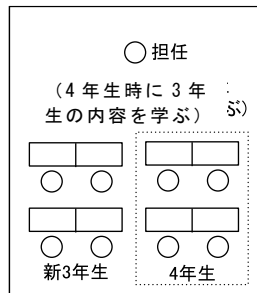
※教師は交互で授業、他学年は仲間で学び合いまたは学習支援員での指導

●違う学年の内容を指導する場合(AB年度方式)

A年度



B年度(A年度の翌年)



進級

異学年が、同時に授業を行う。

2年間で2つの学年の授業を行う。

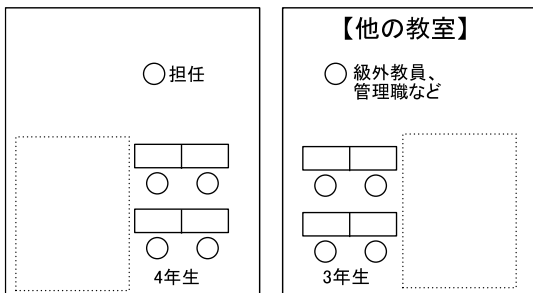
—授業イメージ—

3年生の時に4年生の内容を、4年生の時に3年生の内容の授業を受ける学年が出てくる。

※2年でひとくりになるため、統合まで奇数年の場合、最後の年はこのやり方は使えない。

●級外職員や管理職が授業に入る場合

(校内の他教室を使い、学級を分割)



複式学級内のそれぞれの学年が、別教室にて別々に授業を行う。

—授業イメージ—

通常学級での授業と同じ。

※1学級を2学級に分けるため、授業を行う教員も2名必要。

※実際の運営では、すべての教科を一つの方式で実施するのではなく、教科ごとに方式を変えるなど、組み合わせて実施(理科、社会はAB年度方式、国語、算数は学級を分割して行う、など)